

聖霊降臨後第14主日特禱（特定16）

主よ、教会はただ主の助けによってのみ健全に立つことができます。どうか絶えることのない助けをもって主の教会を清め守り、恵みと力によっていつまでも堅く保たせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 ヨシュア記 24章1節～2節 a、14節～25節

24:1 ヨシュアはイスラエルのすべての部族をシェケムに集め、イスラエルの長老と頭、裁き人、役人を呼び寄せた。彼らが神の前に立つと、2 ヨシュアはすべての民に言った。

14 今こそ、あなたがたは主を恐れ、真心と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの先祖が、ユーフラテス川の向こうやエジプトで仕えていた神々を取り除き、主に仕えなさい。15 もし、主に仕えることがあなたがたの気に入らないのなら、ユーフラテス川の向こうにいた先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを今日、選ぶがよい。しかし、私と私の家は主に仕える。」16 民はこう答えた。「主を捨てて、他の神々に仕えることなど、私たちがするはずがありません。17 私たちの神、主こそ、私たちと私たちの先祖を、エジプトの地、奴隷の家から導き上ってくださった方であり、私たちの目の前でこれら数々の大いなるしるしを行い、私たちの歩んだすべての道で、また私たちが通って来たすべての民の中で、私たちを守ってくださった方です。18 主は、この地に住んでいたアモリ人をはじめ、すべての民を追い出してくださいました。私たちがまた主に仕えます。この方こそ私たちの神だからです。」19 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは主に仕えることができないであろう。この方は聖なる神であり、妬む神であって、あなたがたの背きと罪をお赦しにならないからである。20 あなたがたが主を捨てて異国の神々に仕えるとき、主はあなたがたに幸いを与えた後でも一転して災いを下し、あなたがたを滅ぼし尽くされる。」21 民はヨシュアに言った。「いいえ、私たちは主に仕えます。」22 ヨシュアが民に向かって、「あなたがたが主を選び、主に仕えるということの証人は、あなたがた自身である」と言うと、民は「私たちが証人です」と答えた。23 「ならば今、あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、あなたがたの心をイスラエルの神、主に向けなさい。」24 民はヨシュアに向かって、「私たちは私たちの神、主に仕え、その声に聞き従います」と言った。25 その日、ヨシュアは民と契約を結び、シェケムで掟と法とを定めた。

詩編 第34編15節～22節

- 15 主の注がれる目は正しい人の上に // 神は彼らの叫びを聞かれる
- 16 主のみ顔は悪を行う者に向けられ // 彼らの名は地から消される
- 17 主は正しい人の叫びを聞き // 悩みの中から救ってくださる
- 18 主は悲しみ嘆く者の近くにおられ // 失意の人を支えられる

- 19 正しい人は悩みが多い // しかし主はすべての悩みから助け出される
20 神は彼らの骨をことごとく守り // その一つさえ砕かれることはない
21 正しい人を憎む者は罪に定められ // 悪人は悪で身を滅ぼす
22 主は神に仕える人を贖い // 主に寄り頼む者を滅びから救われる

使徒書 エフェソの信徒への手紙 5章21節—33節

5:21 キリストに対する畏れをもって、互いに従いなさい。22 妻たちよ、主に従うように、自分の夫に従いなさい。23 キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。24 教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。25 夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のためにご自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。26 キリストがそうなされたのは、言葉と共に水で洗うことによって、教会を清めて聖なるものとし、27 染みやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、傷のない、栄光に輝く教会を、ご自分の前に立たせるためでした。28 そのように夫も、自分の体のように、妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。29 これまで、誰もわが身を憎んだ者はいません。かえって、キリストが教会になされたように、わが身を養い、いたわるものです。30 私たちはキリストの体の一部なのです。31 「こういうわけで、人は父母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となる。」32 この秘義は偉大です。私は、キリストと教会とを指して言っているのです。33 いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。

福音書 ヨハネによる福音書 6章60節—69節

6:60 弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「これはひどい話だ。誰が、こんなことを聞いていられようか。」61 イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのに気付いて言われた。「あなたがたはこのことにつまずくのか。62 それでは、人の子が元いた所に上るのを見たら、どうなるのか。63 命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。私があるがたに話した言葉は霊であり、命である。64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる。」イエスは最初から、信じない者が誰であるか、また、ご自分を裏切る者が誰であるかを知っておられたのである。65 そして、言われた。「こういうわけで、私はあなたがたに、『父が与えてくださった者でなければ、誰も私のもとに来ることはできない』と言ったのだ。」66 このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。67 そこで、イエスは十二人に、「あなたがたも去ろうとするのか」と言われた。68 シモン・ペトロが答えた。「主よ、私たちは誰のところへ行きましょう。永遠の命の言葉を持っておられるのは、あなたです。69 あなたこそ神の聖者であると、私たちは信じ、また知っています。」